



おともがわ

学校報 NO. 32

保護者版

令和3年12月3日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

保健集会

～これで解決、すっきり元気！～

11月25日(木)、健康第一委員会主催で標記の集会が行われました。

今回の集会では、朝食を食べてきているのに朝から元気が出ないケースや、夜ぐっすり寝たはずなのに眠気がとれないケースについて、寸劇やクイズをもとに、その原因をみんなで考えました。

健康第一委員会の皆さんからは、次のようなお話がありました。

- ・朝食は、食べてくるなら何でもいいというわけではないこと。
- ・食べ物には、「体をつくる元となるもの」「エネルギーの元となるもの」「病気を防ぐ元となるもの」の三つのグループに分かれ、これら全てがバランスよくそろって食事をとると、体が元気になること。
- ・小学生の睡眠時間は、8時間では十分ではなく、9時間～11時間くらい寝るのがよいとされていること。
- ・睡眠をたっぷりすると、「疲れがとれる」「病気にかかりにくくなる」「勉強したことが頭の中で整理され、定着しやすくなる」など、よいことがたくさんあること。

とても大事なことに気付かせてくれた健康第一委員会の皆さん、ありがとうございました。ご家庭でも、食事や睡眠について、話題にいただければと思います。



ぼけっとさんによる読み聞かせ(2年生)

12月2日(木)、ぼけっとさんの〇〇〇〇〇〇さんにお出でいただき、2年生に読み聞かせをしていただきました。今回読んでいただいたのは、「わんぱくだんのゆきまつり」という絵本です。

この本のあらすじは、「雪が降ったある日、わんぱくだんの三人は公園でかまくらを作ろうとします。やっとのことで完成させ、夜に再び集まって、かまくらの中でパーティーを開いていると、昼に自分たちが作った『うさぎだるま』がやってきて、三人を外に連れ出します。すると、外は昼とはすっかり様子が変わっていて、雪まつりが始まっていたのです。三人は雪まつりに参加し、ダンスをしたり氷でできたビッグコースターに乗ったりして楽しめます。しかし、そんな三人を突然猛吹雪が襲い、三人は…(略)」というものです。

子どもたちは、わんぱくだんシリーズの絵本が大好きで、今回も身乗り出すようにして聞いていました。子どもたちの感想を紹介します。

- ・わんぱくだんの三人が作った「うさぎだるま」が動いたことが不思議でした。三人がそろって、こんな楽しいことが起きるんだなと思いました。
- ・あんなビッグコースターや観覧車ができるのが不思議だなと思いました。なのに、朝には消えてしまうことも不思議でした。
- ・わんぱくだんの三人が集まると、かまくらも作れるし、雪だるまも作れるから、すごいなと思いました。わんぱくだんの物語を、また読みたいです。

ちょうどこの日は、朝から本格的に雪が降っていました。これからの季節にぴったりの内容で、子どもたちも想像を膨らませていたようです。素晴らしい読み聞かせ、ありがとうございました。



内小っ子の活躍

令和3年度明るい選挙啓発標語コンクール
主催 大仙市選挙管理委員会

最優秀賞 ○○ ○さん(○年生)
受賞作品 「一人一人の気持ちが
投票箱につまってる」

小学校の部は、全部で206作品の応募があり、○○さんの作品は、その中で見事最優秀賞(1位)となりました。おめでとうございます。

秋の火災予防運動防火ポスターコンクール
主催 大曲仙北広域市町村圏組合

優秀賞 ○○○○さん(○年生)
同 ○○○○さん(○年生)

12月1日(水)に、大曲消防署の方がお見えになり、二人に直接賞状を授与してくださいました。また、お祝いの言葉もいただきました。おめでとうございます。

第44回児童生徒県南美術展
主催 仙北市教育委員会

奨励賞 ○○○○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
入選 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○○ ○さん(○年生)
同 ○○○○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○○○○○さん(○年生)
同 ○○ ○○さん(○年生)
同 ○ ○○さん(○年生)
同 ○○ ○さん(○年生)

受賞した皆さん、おめでとうございます。上記の美術展は、角館町平福記念美術館で、11月28日(日)から令和4年1月25日(火)まで行われます(途中休館日あり)。

子どもたちの力作を、ぜひこの機会にご覧いただければと思います。



読書感想文コンクール秋田県地方審査 優良賞受賞作品を紹介します!

「点が広げる世界」

○○○○○さん(○年生)

「お母さん、点に見える星の並び方と星の名前がセットだなんてすごいよね。」

夜空の北斗七星を見てつぶやいた私に「○○、ナイス。それっていい感覚。」と言うと、「暗やみの中のきらめき」という本をくれました。

物語は、寝静まった夜の部屋のささやきから始まります。そこはフランスの盲学校の寄宿舎。眠っているはずの時間。毛布にくるまりベッドの間で輪になる少年たち。シー。見回りの先生に気付かれないように、まるで自分もメンバーの一人のようにドキドキしました。読み進めるうちに、何とそれは点字の発明の最中だったことが分かりました。その中心が、ルイ・ブライユだったのです。

ルイは、二百年ほど前にフランスに生まれました。お母さんの焼くパンの匂いに囲まれながら、丁寧に馬具を作るお父さん。そばで見ている四歳のルイ。穏やかな家族の時間には、たっぷりの優しさ。ルイの将来への期待があふれているのが伝わってきました。とても温かなきらきらは、事故による失明で突然奪われてしまったのです。

点字—この本を読むまでは、目の見える大人が作ったものだと思っていました。まさか私と同じ子どもが考え、まさか目も見えなかったなんて。事故で視力を失ったルイ。見えていた大好きなものや、見えていたきらきらな世界が、どんどん暗闇に変わっていく。想像だけでも怖くてたまりません。お父さんたちも、どんなに悲しかったでしょう。どちらの気持ちになっても、心がキュッと痛くなりました。それなのに、ルイは世界中の目の見えない人たちの希望になる「点字」を作り出すことを、とうとう成功させました。絶望の中で希望をもち、形になるまで頑張り通せたのは、なぜだったのでしょうか。

私は、目が見えていたときも見えなくなってからも、ずっと変わらずにルイを照らしてくれた光があったからだと思います。本を読みたい、そのために目の見えない人にも読める文字を作りたい。そんな難しい夢をもつルイを「君ならきっとやれる」と信じてくれたジャック神父。この言葉によってルイの心の中に灯ったきらめきは、何だか、私にも見えた気がしました。私にもジャック神父みたいな人がいます。優しく教えてくれるお父さん、気付いてくれるお母さん。ぬいぐるみで勇気づけてくれるお兄さん。難しいことにトライするとき、一人でも信じてくれる人が心になれば、きらきらした勇気がわいてくることを私も知っています。たった六個の点の組み合わせで、指で読める力強い文字を作ったルイ。小さくても一つ一つの点がかっこいいです。私もルイみたいに、いつか何かできるかな。

「お母さん、左上の一つの点で『A』のことなんだって。」今夜も夜空の星がきらきらの点字みたいです。